

事後調査の結果

調査項目（騒音・振動）

予測した事項（建設機械の稼働に伴う建設作業騒音）

1. 調査地域

工事を実施した区域及びその周辺とした。事業実施区域及び調査地点の位置を図1-1に示す。

2. 調査手法

1) 調査時点

調査工種が最盛期となる代表的な1日とした。

調査時期を表1-1に示す。

表 1-1 調査時期

工 区	工 種	作業内容	調査期日
橋梁部	上部工 (桁架設工)	主桁架設	平成 31年2月15日（金）20時～ 2月16日（土）7時

2) 調査地点

図1-2に示す仮囲い外側の地点とし、測定高さは地上高1.2mとした。

3) 調査方法

(1) 予測した事項（建設機械の稼働に伴う建設作業騒音）

建設作業騒音レベルの測定は、「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生・建設省告示第1号）に定める騒音測定方法に準拠して行った。

使用機器は、JIS C 1509 : 2005 クラス2に適合する普通騒音計を用い、測定高さは地上1.2mとした。測定は20:00～翌7:00の11時間とした。

測定時間は、建設機械が稼働している時間帯とし、1時間毎の最大である10分間をその時間の測定値とした。対象工事が施行されていない場合（工事開始前及び終了後、または休憩に該当する時間帯は除く）にも同様の測定値とした。

測定結果の整理は、作業時に騒音の指示値が不規則かつ大幅に変動していたために測定値の90%レンジの上端値（ L_{A5} ）として整理した。

なお、測定中に発生した建設作業騒音以外の除外すべき騒音（鉄道騒音、踏切の警告音、緊急車両のサイレン音、直近道路の自動車騒音等）の発生が認められた場合は解析時に除外した。

(2) 予測条件の状況（建設機械の稼働状況）

現地調査及び工事関連資料の確認により行った。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査及び工事関連資料の確認により行った。



[凡例]

■■■■■ 事業区間 (延長 : 約 1.3km)

● 騒音調査地点

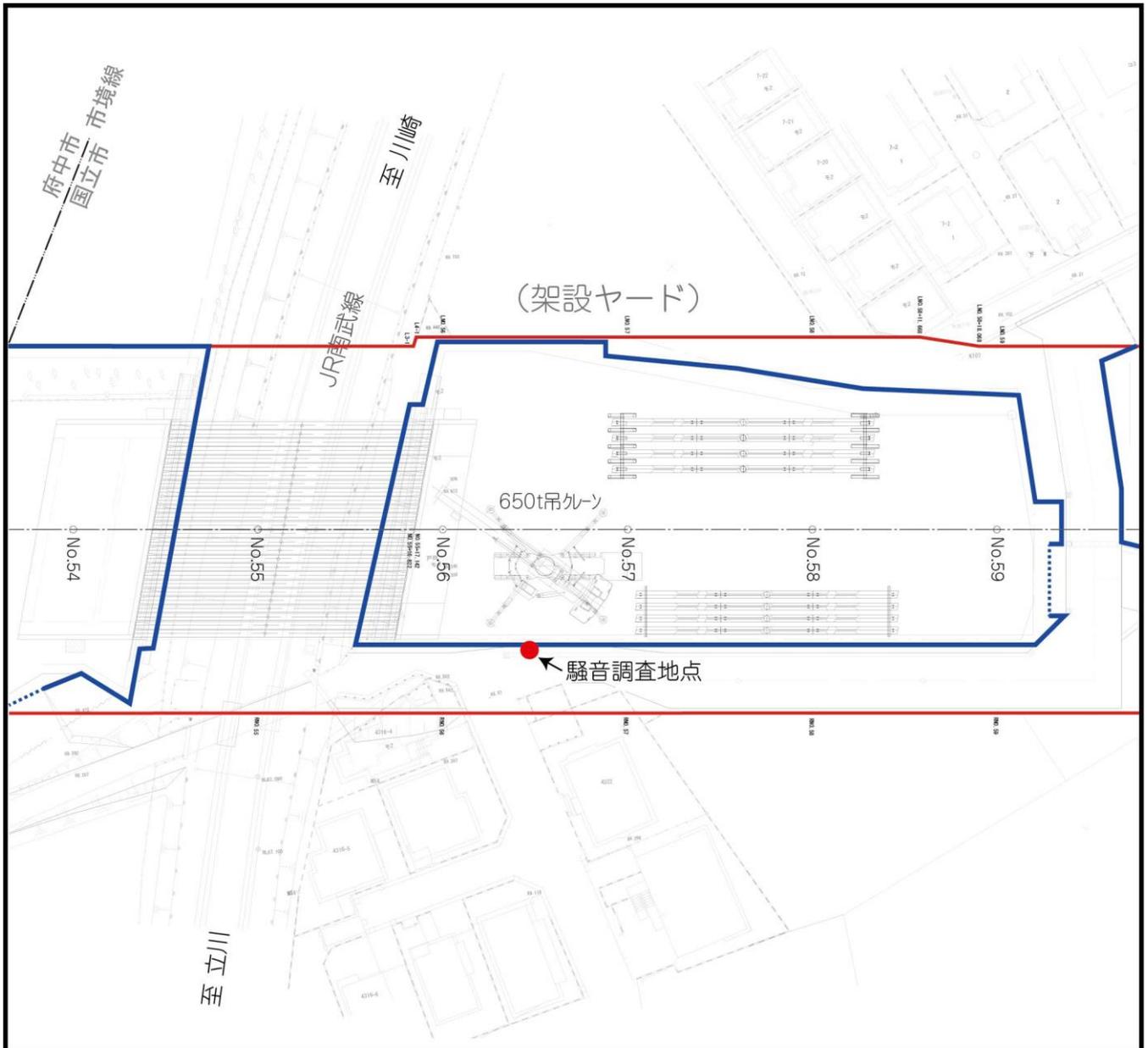
備考 : この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 に、凡例に示す内容及び名称等を追記したものである。

図 1-1 騒音調査地点位置図

1 : 25,000

0 250 500 750m





[凡例]

- : 計画線
- : 仮囲い
- : 騒音調査地点

図 1-2 騒音調査地点詳細図



3. 調査結果

1) 事後調査結果の内容

(1) 予測した事項（建設機械の稼働に伴う建設作業騒音）

①橋梁部 上部工 [桁架設工] (主桁架設)

騒音レベル (L_{A5}) の測定結果は、表 1-2 に示すとおりである。

表 1-2 騒音レベル (L_{A5}) 測定結果

調査期日：平成 31 年 2 月 15 日 (金) ~ 2 月 16 日 (土)

単位：dB

観測時間	測定値	備考
20 時台	43	作業前
21 時台	76	主桁運搬
22 時台	73	↓
23 時台	73	↓
0 時台	71	主桁架設準備・主桁架設
1 時台	69	↓
2 時台	73	主桁架設作業終了・片付け作業
3 時台	55	片付け作業終了
4 時台	40	作業なし
5 時台	42	↓
6 時台	46	↓
作業中の最大値	76	—
作業中の最小値	69	—
勧告基準	80	—

備考：建設機械の稼働状況は表 1-3 (p12) 参照。

■ は最大値を示す。